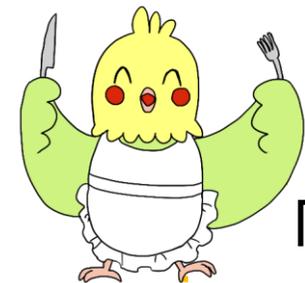


こみさぽ倶楽部 「障害について知ろう・考えよう」



障害や障害者支援に関するニュース記事をこみさぽメンバーがレポートしました

「注文に時間がかかるカフェ」

概要

10月神戸に期間限定でオープンしたカフェのスタッフは全員吃音の当事者たち。吃音とは話し言葉が滑らかに出不い発話障害で、会話は好きなのにクラスなどでからかわれてしまい、口数が減ってしまう方も多いようです。スタッフは注文に時間がかかりますが、お客さんにゆっくりと自分の言葉で接客し、その姿に、イベントに足を運んだ吃音症をかかえる方や家族に吃音症の子がいる方など多くのお客さんが、勇気もらったようです。

出典

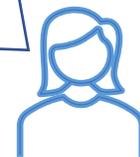
「注文に時間がかかるカフェ」 “吃音症” の若者たちが接客スタッフ 「本当は人と話すのが好き」と挑戦 関西テレビ

(<https://www.ktv.jp/news/feature/221024-4/> 閲覧日 2022年10月25日)

【感想】

この記事を読んで、吃音症のつらさについて初めて考えました。今までは言葉がどもってしまう人に出会ったとき、「話すのが好きではなかったり、苦手だったり人それぞれ事情がある」と考えていて、どちらかというところ“話すのが好きではない”とネガティブに思っていました。実際は正反対で話すのが好き、接客業にチャレンジしてみたいと、とても前向きな方が多く、生きづらさを感じさせないところに尊敬しました。吃音症の社会的認知度が上がることは、私たちにとってもどのようにサポートしていけばよいか考えるいい機会だと思います。

(by ごっつー)



「ヘルプマークの転売が横行 当事者は頭を抱える」

概要

フリマアプリやオークションによるヘルプマークの売買が横行している。ヘルプマークは税金で作られ無償配布されているものであるため、大量のヘルプマークを転売することで儲けようとしているのである。

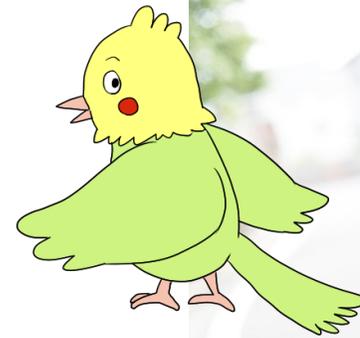
もちろん転売行為は本当に必要な人の分が無くなってしまいうため問題のある行為である。しかし、身体の不自由な障害者や、パニック障害、様々な障害を持つ当事者の中には配布場所までたどり着けない人もおり、転売行為は皮肉にもそのような人にとっての助け舟となってしまっている。

このような背景から当事者たちは転売行為に対して頭を抱えている。

【感想】

当事者が周囲に支援の必要性を知らせるために導入されたはずのヘルプマークが商売のために利用されているというのはとても悲しいことです。しかし、裏返して言えばこのような商売が成立してしまうほどヘルプマークが当事者に行き渡っていないとも言えます。

どんなに素晴らしい制度でも利用者が使用できなければ意味がありません。配布会場以外での郵送など、この点はぜひとも改善してほしいと思いました。（by きなこもち）



出典

<https://www.j-cast.com/2018/03/31324665.html?p=all>

「ブラインドサッカー女子日本代表がアジア・オセアニア選手権制覇! 23年夏の世界選手権出場が決定」

概要

ブラインドサッカー女子日本代表がIBSAブラインドサッカーアジア・オセアニア選手権 2022に出場で初出場、初優勝を飾った。この結果、来年に女子カテゴリー初開催となる世界選手権の出場権も手にした。主将は「初めてのアジア選手権で優勝することができ、チーム全体で嬉しく思っている」と述べた。本大会で最優秀選手と得点王は日本人選手が受賞した。

出典

<https://news.yahoo.co.jp/articles/39457398a11d7aa1778ac1ffbf4e91425cbe4750>

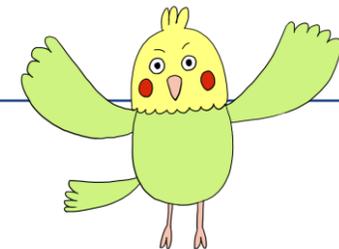
閲覧日:2022年11月17日

【感想】

ブラインドサッカーの映像など見ると、目が見えないにもかかわらず、パスのスピードが速かったり、ドリブルの正確さが高かったりするため、毎回すごいと思います。特に、キーパーは晴眼者または弱視の方が行うため、シュートをするときのスピードなどは一般の人と変わらない迫力を持っている点に驚きます。

また、女子日本代表だけでなく、男子日本代表もパラリンピックで5連覇しているブラジル代表に勝利したというニュースを先日見たため、男女ともにブラインドサッカーへの関心が高まっていくのではないかと感じました。

しかし、パラリンピックに参加できるのは、男子だけだったので、これをきっかけに女子のブラインドサッカーについて注目し、パラリンピックの正式種目に採用されるようになってほしいなと思います。(by ウォーカー)





「多種多様な障害者の支援活動を通して、 お互いに認め合い、誰もが生きがいを持てる 社会づくりに貢献」

概要

日本福祉協議機構では、障害を持った人もやりがいを持って働くことのできる「アペロ・ヒューレ」を運営している。

代表の濱野さんは、障害者支援を行う中で、やりがいを持って働くことができ、正当な賃金が支払われる場所を作りたいと考えた。そこで、「生き物や花が好き」という障害を持つ子供の意見に発想を得て、2017年に世界の植物と昆虫を扱う「アペロ・ヒューレ」を開店。発達障害の人たちのそれぞれの個性や才能に寄り添ったレクチャーを行っている。代表の濱野さんは、こうした就労支援を行う中で、「ただ給料を貰えばいいというのではなく、働くことの喜びや満足感もないとだめということに気づいた」と語っている。

さらに、就業支援だけでなくフードロス問題も解決するためのカフェを立ち上げるなど、新たな取り組みも行っている。

【感想】

日本福祉協議機構は従来の支援の枠組みを超え、新たな取り組みを様々行ってすごいと思った。

障害を持っているから単純な仕事をするのではなく、障害を持っているからこそその個性や才能を活かして働くことができる環境というのが素敵だと思った。

障害者の親が高齢になり面倒を見れなくなることが問題になっているが、障害者が働くことにやりがいを感じ、正当な賃金を得て自律できるようになればそういった問題の解決の糸口になる良い取り組みだと思った。

一方で、一般の就労支援施設で同様のことを行うには、障害者をサポートする方の人数や財政の問題で課題もあると感じた。その点、日本福祉協議機構ではどのようにしてそういった問題を乗り越えているのか気になった。

(by ゆきんこ)

出典

Walkerplus 「多種多様な障害者の支援活動を通して、お互いに認め合い、誰もが生きがいを持てる社会づくりに貢献」

<https://news.yahoo.co.jp/articles/39a7762e968361bf0d9c0585bad97a400da27fa>

更新日2022年9月17日、閲覧日2022年11月13日

「自由に移動できる喜び」

概要

福祉車両とは「介護式」という体に障害のある人を介助・送迎するための車と、「自操式」という体に障害のある人が自分自身で運転するための運転補助装置が搭載された車の二種類あります。福祉車両には車いすを積み込まなければならないためワンボックスタイプやファミリーカータイプが一般的です。しかし、マツダ株式会社は2シーターのスポーツカーに手動運転補助装置（ミクニライフ&オート製）を付けるという画期的な開発をしました。また、マツダはこの自操式車両を「Self-empowerment Driving Vehicle（略してSeDV）」と名付け、「Self-empowerment」は直訳すると「自分に力を」という意味になり、松田恒次元社長の思いが込められているそうです。

出典

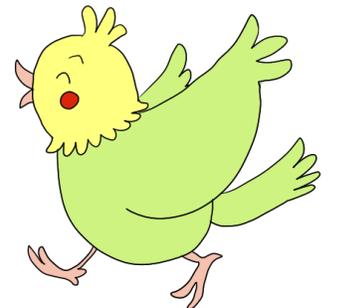
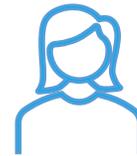
「自由に移動できる喜びをすべての人に。障害者が運転できる車にマツダがこだわる理由」
日本財団ジャーナル

(<https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2022/80842/disability> 閲覧日2022年10月27日)

【感想】

病気や事故で体に障害が残ってしまった方の多くは車に乗ることを諦めてしまったり、自操式の福祉車両に乗ることはできても好きな車には乗れなくなってしまう方は多く、車好きだった方や運転することが生きがいの方にとっては厳しい現実であったと思います。そんな中、マツダでは再び運転するこの楽しさや喜びを感じられる自操式福祉車両の開発で多くの方がまた生きがいを感じられたのではないのでしょうか。

また、自動車は移動する手段でもあるので、移動格差解消の第一歩になればいいと思います。（by ごっつー）



「欄干のない橋」

概要

鉄道駅のバリアフリー施設で整備が急がれているのがホームドアである。視覚障害者の転落事故は毎年60～80件起きており、死亡事故も絶えないことから早期整備を求める声が上がっている。

網膜色素変性症を発症し、光が少しわかる程度の視力の男性は、自宅近くの駅を利用したときに電車がホームに到着した音が聞こえ、一歩踏み出したところ線路へ転落した。しかし、男性が最初に感じたのは痛みよりも「電車にひかれ死んでしまう」という死の恐怖だったそうだ。その後も気が付いたらホームの端を歩いていてヒヤリとした経験があり、「視覚障害者にとってホームドアのない駅のホームを歩くのは欄干のない橋を渡っているようなもの。ホームドア整備を急いでほしい」と訴えている。

出典

ホームドアのない駅は「欄干のない橋」と同じ…視覚障害者に死の恐怖「整備急いで」
読売新聞

(<https://www.yomiuri.co.jp/national/20210620-OYT1T50045/> 閲覧日2022年11月16日)

【感想】

この記事を読んで視覚障害者にとって外出は命がけだということを再認識しました。そのような事実を知り、私たち健常者は、身体に不自由がある人達が安心して外出できる街づくりを課題にするべきではないかとおもいます。目の不自由な人にとって命綱のような点字ブロックをホームの端に敷いたことによってこのような転落事故が多発しているのだとしたら、経済的な問題はあるにしても早急に対策しなければならないと感じました。

(by ごっつー)

